



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

とうきょう すくわくプログラム

活動報告書

久米川なかよし保育園

ふたばぐみ（1歳児）

## 1 活動のテーマ

# 音

## 2 問いを考える

テーマ3の展開として、  
楽器に触れて音への興味関心を広げていく

3月 様々な楽器を用意し楽器に触れる

## 3 環境をデザインする 活動のために準備した素材や道具

- 鈴
- タンバリン
- チューブパイプ
- ポップチューブ
- キーボード
- ミュージックポンプ
- カスタネット

# 4 探究活動の実践



使い方 探し中

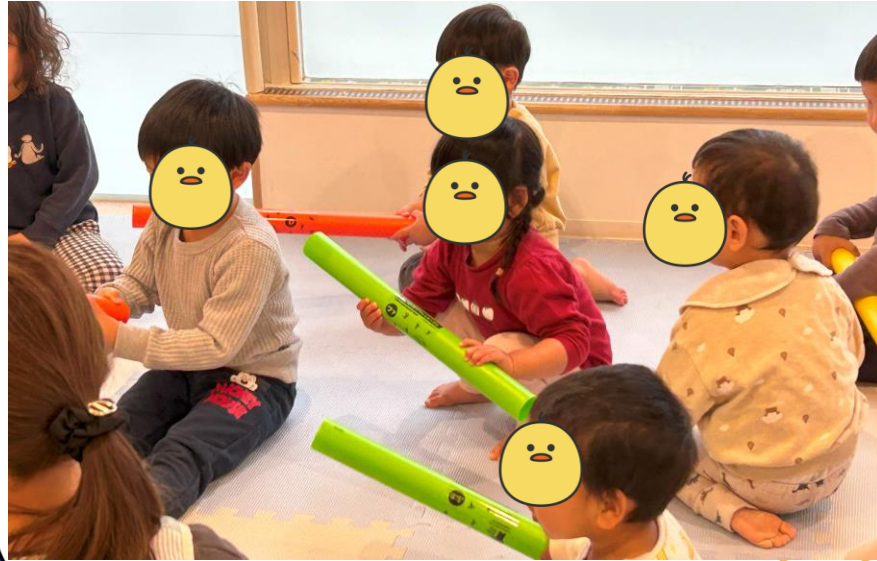


手を揺らすと「音なった！」

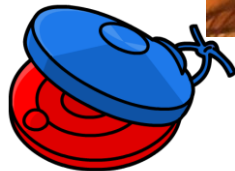
踏むと音が鳴るね。  
そとそとと渡らなきゃ



降園の遊具に耳を傾けたよ  
「カンカン」って音したね



カいっばい振ってもならない音いまだ  
研究中



## 5 振り返り

音を通して相手との共感が生まれたような雰囲気がある。一人一人がじっくり楽しみ探究＝遊びの追求となっていたように感じる

一人遊びが主な年齢でも、一緒に音を出すことで生まれる相手への共同性が遊びを通して生まれた音を通じてのコミュニケーションがみられた。一人で出す音、みんなで出す音、力を合わせて出す音、子ども自ら積極的に楽器に触れていた

本物の楽器を用意したことで、音楽表現の幅が広まった。楽器の持つ響きや振動を体感できた。自分の慣らし方次第で音の高さや低さ、大小の大きさが変化することに気づいた子もいた。こうしたらどうなる？『音』への探求を自然と行っていた



音

大人も夢中になって楽器を慣らし、年齢問わずに楽器は共通のコミュニケーションだと感じた

今回は楽器に触れて音を鳴らしてみたが、子どもの興味関心はとても深く、回を重ねながら音を表現する方へ 探求が進むとよい

大人でも力の入れ方がわからなかった楽器もあるが大人が楽しむことで子どもへの興味関心も大きくなり、皆で一緒に取り組むことができた。職員の一体感もうまれ楽器を使って演奏を子どもたちへプレゼントしたい